

平成28年 高知大学冷水病調査

～鏡庁舎前・小川口・発電所上編（平成28年5月23日）

平成28年、鏡川での第一回目となる高知大学冷水病調査のサンプル採取を中流・上流で行いましたのでご報告いたします。これは、高知大学農学部医学博士今城雅之氏による鏡川の鮎の冷水病調査にサンプルを提供するものですが、6月1日の鏡ダムより下流域解禁を前にして、遊漁者の皆様に鏡川でのアユ漁を楽しんでいただくため現在の状況を発信させていただきます。



鏡庁舎前（中流）では1時間で平均8匹、小川口（中流）でも8匹の成果がありました。また発電所上（上流）でも平均8匹、一番大きなもので20cm、平均15cm～18cmのアユが釣れ、ますますの成果だったそうです。但し、支流が若干弱く14cm～16cmといったところだということでした。



また、4月25日におこなった内水面センターの潜水調査でも発電所上流や下弘瀬などで多くのアユを確認しています。（詳しくは鏡川漁協HPで）



今年は、ダム湖産が良好で内水面センターの担当者によると上流に行くほどアユが少ないということなので本流でのアユ漁を楽しんでいただけるようです。調査結果は、また今後HPの高知県河川魚類の病でご報告させていただきます。